

初めてのイグルーでジプシー生活も堪能！

頸城 天狗原山～金山 スキーツアー

浅井

【日時】 2008年3月21日～23日

【メンバー】 L田辺、中村、浅井、大田原

3月の飛び石連休の内、金・土・日を使っの2泊3日のスキーツアーである。当初は谷川方面を計画していたが、先週以来の暖かさで雪が急激に少なくなっているようなので、急遽頸城の天狗原山方面に変更になった。私は天狗原山方面は全く行ったことがないので、この変更はかえってありがたかった。

3/21 晴れ

前夜の東京は雨模様だったが、朝起きると青空が広がっていた。予報よりも天気はいいようだ。除雪された道を小谷温泉の柵の樹亭まで車で入る。この辺りに何度も来ている利香さんや中村さんの話によると、今年は雪解けが早く進み、もうGWのような景色になっているとのこと。こんな感じでは今年のGWの計画はどうなるんだと中村さんがしきりにぼやいていた。

シールをつけて8:20、出発。しばらくは林道沿いに進み、林道が大きく湾曲するあたりから松尾川に下りて沢沿いに登っていく。最初は一部水が出ていたが、しばらくすると雪でびっしり覆われた広大な雪面が広がり、快適に歩けた。しかし無風快晴で暑い！ 休憩の度にどんどん薄着になっていき、もう気分はGWのような感覚であった。1570mの三俣付近から左俣の急斜面をつめ、13:10、稜線に出た。行く手に見える天狗原山のボリュームのある山容がすばらしい。1990mの天狗原山の肩まで稜線を登り、そこでシールを外し、金山谷に滑り込む。稜線は風が強かったが、谷に入ると風は収まった。天狗原山の東面はスケールの大きな大斜面が広がり、すばらしいロケーションだが、残念ながら雪質が最悪で、滑りは全く楽しめなかった。最中雪に足をとられ、何度も転びながら谷を滑り降り、適当な所で裏金山谷との中間尾根に登り返す。その尾根を少し下りた1650m付近に幕場適地があったので、15:30、今日はここに泊まることにした。



★天狗原山のすばらしい山容

今回はテントを持たず、最初からイグルーを作って泊まる計画だったので、利香さんの指導のもと、さっそくイグルー建設にとりかかる。利香さん以外の三人はイグルー初体験である。あらかじめ利香さんからイグルー作りのレシピをもらっていたので、その手順に沿って作っていった。円形に内傾させながら、ブロックを積んでいくが、その内傾の加減が実際にやってみると難しい。中村さんはさすが工学博士だけあってその力学

今回、利香さんの指導のもと、さっそくイグルー建設にとりかかる。利香さん以外の三人はイグルー初体験である。あらかじめ利香さんからイグルー作りのレシピをもらっていたので、その手順に沿って作っていった。円形に内傾させながら、ブロックを積んでいくが、その内傾の加減が実際にやってみると難しい。中村さんはさすが工学博士だけあってその力学

のコツをすぐつかめたらしく、ブロック積みは中村さん主導で進められた。最後の入口の穴掘りに時間がかかったが、約2時間で四人用イグルーが完成した。雪だけで家を作るという、まるで原始人に返ったような不思議な感覚が味わえた。中はなるほど暖かいが、今の時期の雪は解けやすく、天井から雫が落ちてくるのが唯一の難点であった。シュラフに入ってから、何故か狙ったように私の顔の上に雫が落ちてきてなかなか寝付けなかった。それでも月明かりがブロックの隙間から洩れてきて、なかなか幻想的で素敵な一夜を過ごせた。

3/22 快晴

8:20、出発。昨夜まで時折吹いていた強風も収まり、今日は朝から無風快晴。歩き出すと早くも汗が吹き出てくる。金山谷と裏金山谷との中間尾根を稜線目指して登っていく。雪はクラストしており、スキーアイゼンがよくきいた。中間尾根を登りきると天狗原山と金山との鞍部に出た。このあたりは台地状の広大な雪面が広がっており、まさにスキー向きの山と言える。なだらかな斜面を登りきると、10:50、金山山頂(2245m)に到着。



★金山山頂でポーズをとる3人

山頂からは360度の絶景が広がっていた！ 近くには妙高・火打・雨飾などの頸城の山々、西の奥には雄大な北アルプスの山並、さらには日本海までくっきりと見下ろせた。しばし大展望に見惚れた後、シールを外して、雨飾山へと続くシゲクラ尾根を途中の茂倉峰まで滑る。ここは昨日の金山谷とは打って変わって雪質も良く、快適な滑降が楽しめた。



★シゲクラ尾根を快適に滑る

12:50、茂倉峰着。ここからは海谷溪谷に向かって伸びている北面の尾根を1300mあたりまで滑り降りた。ここも雪質は良く、快適な滑降が楽しめた。

海谷溪谷の右俣の白倉峰に詰め上がる沢とその枝沢との中間尾根(1463mの印がある尾根の一つ東側の尾根)に登り返し、1400m付近で幕とした(14:15)。今日はわざと急斜面を選んで、そこに半イグルーの要領でブロックを積み、上はツェルトで覆ってみようという算段である。まず急斜面の一角を平にならし、両脇と前面にブロックを積んでいく。最後に真中にロープを張り、そこにツェルトを三つ掛けて屋根とした。屋根がツェルトだと昨日のように雫が滴る心配がない。仕上げに入口をツェルトで覆って、約1時間強で快適な居住空間が完成した。漂泊の旅をしているような情緒があり、これはこれでなかなか味があると思った。その完成した家を眺めながら、外のブナ林の下でしばし宴会をし、夜はニューハウスで快適な一夜を過ごせた。

http://www.tomanokaze.dojin.com/

3/23 晴れのち薄曇り

8:00、出発。今日も朝からよく晴れている。幕場の尾根を15分も登ると、シゲクラ尾根の稜線に出た。雨飾山が目の前に大きく迫って見える。尖った白倉峰を右から巻きさらに進むと、黒沢峰の手前あたりから、尾根の起伏が激しくなり、スキーで雨飾山手前まで行くのは厳しそうに見えた。一方、南面の黒沢を見ると下までいい斜面が続いている。そこで中村さんの提案により、当初の計画の雨飾山手前の笹平から下りるのはやめて、ここから黒沢を滑ることにした。

シールを外し、9:30、滑降開始。黒沢は下部の滝マークのある所まで、快適に滑れた。滝は完全に出ており、通過できないので、滝上から隣の荒菅沢との中間尾根に登り返し、10:50、今度はその尾根から荒菅沢に滑り込む。荒菅沢を快適に滑り降り、11:10、大倉沢出合着。途中で迂回した黒沢の滝が見えたが、なかなか立派な滝であった。足の怪我で夏以来沢に行けなかった中村さんは、久しぶりに滝を見たと言って喜んでいた。

後は本流の大海川を快適に下り、途中から林道に上がって、12:20、車のある栃の樹亭に戻った。お風呂は少し先にある山田旅館に寄ったが、とても風情のある温泉で、鄙びた旅情に浸りながら、充実した山行を締め括った。

【行程】

3/21 小谷温泉(8:20)～稜線(13:10)～天狗原山の肩(14:00)～金山谷と裏金山谷との中間尾根1650m付近(15:30)c1

3/22 c1(8:20)～金山(10:50～11:30)～茂倉峰(12:50)～1463mの印がある尾根の一つ東側の尾根の1400m付近(14:15)c2

3/23 c2(8:00)～稜線(8:15)～白倉峰の先の黒沢源頭(9:30)～黒沢の滝上(10:00)～黒沢と荒菅沢との中間尾根(10:50)～大倉沢出合(11:10)～小谷温泉(12:20)

【地図】 妙高山・雨飾山



★初日のイグルー(寝そべっても壊れません！)



★二泊目の快適なニューハウス